

— 水道管からほとぼしる水に大喜びのモンゴカヨの子どもたち —

モンゴカヨ・コミュニティー（かつて公立小学校があったが、非先住民族の教師が定着せず、2年前に閉鎖。今年度、依頼を受けてCMBが学校再開）は、ジェネラルサントス市から車で約1時間、急坂を登ること1時間余りの山の頂上付近に位置する集落です。

地域担当と決まった昨年5月に、15年ぶりにモンゴカヨを訪ねたFr.ルーイからは、「村に至る道の険しさに変わりはないが、森が全く姿を消していたのに驚いた」とのFAX。

モンゴカヨの最大の問題は安全な飲料水がないことでした。

すでに15号でご紹介したように、会員の笠井氏の資金協力により、7-8km先の水源から水を引き、クリスマス前によく村の中心部まで水が届きました。

1月12日には竣工の式典がモンゴカヨの首長とCMBのFr. Polによって行われ、住民による祝いの歌舞が続きました。

パイプから勢いよく流れ出る水を、何回も何回も頭からかぶる子どもたち。私たちにもその喜びが伝わってきました。



—アトゥモロックの多目的住民組合育成事業—

標高1450mのマグロ山の山腹に位置していて冷涼なアトゥモロックは、雨が多い今年の気象条件（ラ・ニーニャ現象）の影響もあって収穫は遅れそうです。そのうえ、ねずみの害、コーンの茎が折れる害虫被害などの報告もあり、貸し付け資材費の返済が予定通り行われるか心配です。（国際ボランティア貯金配分事業期間内に2回収穫を予定）

今回はちょっとしたアクシデントがあり、アトゥモロックを訪ねることができませんでした。代わりに、<アトゥモロックミニ歴史>をご紹介します。（J&P Advocate No.2より）

「アトゥモロックは、20世紀初めまで、Tinglo ClanのDatu（首長）の一人、Maguling一族の猟場だった。その後のクリスタノイビノ（低地人）の大量入植により平野部の農耕地を失い、3人の息子（Wata, Tinglo, Banduli）の代に一族に残されたのは、かつての猟場アトゥモロックしかなかった。ここにも低地人は迫り、伐採業者が入り込んできた…。数年前の状況です」

—キアミの水牛（カラバオ）等購入費ご寄附ありがとうございました—

キアミ・コミュニティーの生活協同組合育成に関連した支援要請に対して、会員の皆様からは早速ご協力のお申し出、ご送金をありがとうございました。キアミのためと明示いただいたご寄附の総額は、6件合計11万円、その他、短期給食や教科書に対するご支援もいただきました。以下にキアミ担当のFr.ブランドの報告（要約）をご紹介します。（地図：キアミを含めてCMBの小学校がある7コミュニティーのおおよその位置○で囲んだところ）

—2月13日付のFr.ブランドの報告より—

カラバオ（水牛）は2頭。カラバオに付ける鋤と計量器も購入しました。給食は、キアミと同じ状況のラビルム分校の子どもたちについても週2回実施することにしました。ネズミの被害が大きく、次の収穫も大きな期待はできませんが、住民達には子どもたちの給食を継続できるように、各種野菜作りを指導しています。

雨続きで増水し、私も一度川の真ん中で馬から落ちて慌てました。町に出るのが大変困難な状況のキアミですが、皆様のご支援により組合活動が軌道に乗れば、陸の孤島に近い状況でもがんばれそうです。ありがとうございました。

